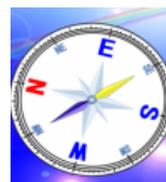




羅針盤



2013/1/8

NO. 70

〈編集・発行〉

東中3年進路指導部

《「公立高校推薦希望」の 申し出について（詳細）》

書くことは以下のことです。しっかり読んで、希望するのか判断しましょう。

「推薦希望申出票」

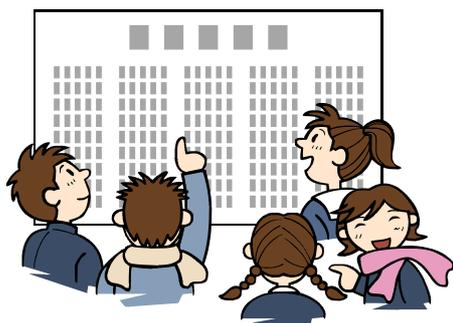
- 受検希望高校・科名
- 志望の理由
 - その学校へ進学したい理由
 - そう考えた経緯
 - 将来の夢や進路など
- 実績、特技、表彰など自分のセールスポイントで、客観的な事実
 - 表彰は、主催者や大会名など正式な名称をきちんと確認して書くこと

「ことばによる自己表現」とは

推薦入試の面接時に3分間実施されます。長所や考えなど、自分自身をアピールできるよう、いすに座ったまま口頭で行われます。

面接の最初に行く学校もあれば、最後に行く学校もあります。特に面接の最初に行く学校では「ことばによる自己表現」で話した内容について、それ以後の面接で質問される場合も多くあります。（面接当日に原稿用紙を会場に持ち込むことはできません。）

上記のことを踏まえて、希望者は「推薦希望申出票」と「ことばによる自己表現の原稿用紙」を提出してください。



《公立高校推薦入試とは…》

10月の進路説明会でも説明しましたが、私立の推薦入試とは意味が違います。私立・専修学校の推薦入試の場合は、一般入試よりも合格しやすいという傾向があります。

しかし、公立の推薦入試の場合は、全くの逆です。

合格定員の10%～30%しか合格できないため、不合格となってしまう人が多く見られます。

東中学校の場合、過去の傾向だと合格率は40%～50%程度です。いくら「不合格でもいいから、一度チャレンジを」という気持ちであっても、実際に「不合格」という現実を目の前にするのはつらいものです。「不合格」後、即座に気持ちを切り替えて一般入試に臨まなくてはなりません。しかし、中には不合格のショックを受けて、一般入試では志望校をあきらめようとする人もいます。これでは、本人にとって何のための推薦入試なのでしょうか。いっそのこと推薦入試など受けない方がその人のためには良かったといえます。

推薦の条件は、10月の「進路説明会要項」にあります。もう一度確認しましょう。

特に、「ア.人物・特技推薦」で求められる実績は、高校ごとにずいぶん異なります。A校では実績として評価してもらえても、B校では評価されないということもあります。「自分の実績」が果たしてどの程度評価されるものかは、申し出期間中に担任の先生と相談してください。

また、「イ.環境推薦」の該当事項については、10月の「進路説明会要項」を参照しましょう。

該当事項については、申し出後に担任の先生が直接保護者に確認をします。証明する関係書類は、推薦委員会での承認後から2月7日（金）までに提出してください。